

学校検診における成長曲線の役割

公益財団法人慈愛会 今村総合病院 小児科 溝田 美智代



平成26年4月30日に学校保健安全法施行規則が一部改正されました。その中で座高と寄生虫卵の検査が必須項目から削除され、「四肢の状態」をチェックする運動機能評価が必須項目として追加されました。改正に係る留意事項として「児童生徒等の発育を評価する上で、身長曲線・体重曲線等を積極的に活用することが重要となること」と規定されています。そのため現在学校では計測した身長体重に基づいて身長・体重曲線を作成しています。

小児の成長には身長が伸びる以外に体重が増えることと二次性徴が含まれています。身長は出生後1歳までに約25cm/年その後5~6cm/年で伸び、2次性徴の時期には男子で25~30cm女子で20~25cm伸びます。二次性徴は男子で11歳頃、女子で9歳頃に開始しますが、二次性徴が完成すると身長も止まるため、二次性徴の開始時期は身長にも大きく影響します。また最近では肥満のお子さんや逆に思春期の女子では痩せ傾向が問題となっています。集団の中では個々の変化を見つけることは難しいと思いますが、成長曲線を作成することでお子さん一人一人の成長の経過をグラフで見ることが可能となりました。成長曲線・体重曲線では低身長・高身長・肥満・やせ以外に成長率低下・増加、体重の増減を直接みて評価することができます。成長は小児

の特徴であり成長に異常を認める場合は何か病気が隠れていることもあります。脳腫瘍のようにすぐの治療が必要な疾患もありますし、成長ホルモンや甲状腺ホルモンなどの治療を行うことで成長の改善が可能な疾患もあります。また二次性徴が完成すると成長は止まってしまうため思春期の異常も早く見つけることが重要です。思春期早発症は女子では特発性の頻度が高いとされていますが、男子では器質的な疾患の頻度が高く精査が必要となるケースもあります。また成長には栄養・睡眠・運動のバランスも重要であり、ストレスなど心理的な因子も影響することがありますので環境要因も含めて見つめ直す機会になります。

小児期は大人の体になるための大事な時期ですので成長曲線を作成し活用することが健やかな成長につながります。身長や体重はデリケートな問題で学校現場では受診を勧めることが難しい部分もありましたが、成長曲線を作成することで受診を勧めるきっかけにもなると思います。今後の活用を期待したいと思います。